

愛&ノハート

♥ あいハート須磨30年の歩み

♥ あいハート須磨30年間のあゆみ(年表)

♥ あいハート須磨職員メッセージ

♥ 外部メッセージ

♥ おかげさまで30周年!

「感謝」と「結束」を胸に
あいハート須磨記念事業イベントを開催

♥ 第4回法人内事例発表会の開催報告

2025 November

279号

30th

あいハート須磨

30周年記念



あいハート須磨開設 30周年記念式典

根本施設長 挨拶

はじめに

特別養護老人ホームあいハート須磨が、この地域に産声を上げてから30年が経ちました。今日まで温かいご支援を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

この30年間、社会は大きな変革を遂げ、私たちを取り巻く環境も大きく変化してきました。高齢化率の上昇、介護保険制度の導入、地域包括ケアシステムの構築など、数々の波を乗り越え、今日まで歩み続けることができたのは、ひとえに利用者の皆様、ご家族、地域の皆様、関係機関の皆様との強い絆があったからこそだと感じています。この道のりを深く感謝の念をもって振り返ります。

1 施設の歴史と創設の想い

あいハート須磨（当時の名称…ハートふる須磨）は、

阪神・淡路大震災から間もない1995年3月28日、地域の皆様が先の見えない不安を抱えていらったその時に、産声を上げました。そうし



た中、特別養護老人ホームとして誕生した当施設は、地域の高齢者の皆様にとって安心の拠点となることを目指しました。

開設当初は人員や設備が十分とは言えず、現場では日々試行錯誤の連続でした。それでも、利用者お一人おひとりの暮らしに寄り添う、という揺るぎない信念を胸に、職員は一丸となって取り組みました。限られた資源の中で、どうすれば少しでも安心できる生活を送っていたただけるか――この問いかけこそが、当施設の変わらぬ原点であり続けています。

2 私たちが大切にしている三つの介護方針

当施設が開設以来、変わらず大切にしている三つの介護方針があります。

① 生活リハビリの実践

日常の営みを楽しみに変えることを大切にしています。食事・入浴・排泄といった日常の営みを楽しみ、残存機能を活かすことを重視してきました。温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供。する直営厨房の工夫。利用者ご自身で料理を取り分けられるバイキング形式の導入。これらは、日々の生活そのものをリハビリの場と捉え、実践してきた証です。入浴においても浴槽の形状を



工夫し、利用者が自ら立ち上がりやすい設計を行うなど、できる力を引き出す視点を重視してまいりました。

② 自己選択とその人らしさの尊重

利用者が主体的に生活を営めるよう支援しています。デイサービスでは書道や手芸といった多彩なプログラムから希望する活動を選ぶ「選択プログラム」を実施。それぞれの思いや意欲を尊重する姿勢は、職員のケアの根幹となっています。

③ 人権とプライバシーの尊重

個人の尊厳を守ることを最優先に、居室の環境整備や介護方法の改善を常に重ねてきました。これら三つの方針は、時代が移り変わってもなお、私たちの活動を支える揺るぎない大黒柱であり続けています。

3 地域との豊かな交流

30年の歩みを語る上で、地域との豊かな交流は欠かせません。夏祭りや敬老会などの行事は、利用者やご家族に喜ばれるだけでなく、地域住民や学校との交流の場として大切な役割を果たしてきました。特に毎年恒例の夏祭りでは、屋台や盆踊りを通じて世代を超えた温かい



交流が生まれ、当施設が地域に開かれた存在であることを改めて実感させて

くれました。

また、地元の保育園児との交流会をはじめ、中学生の職場体験、介護福祉士養成校等からの実習生受け入れなどを積極的に行い、地域での福祉人材の育成にも尽力してまいりました。

4 共に歩んできた皆さまとの絆

NTT労働組合をはじめとする多くの方々から、施設の運営面において継続的にご協力をいただいてまいりましたことも非常に大きな力となりました。後援会費、寄付金、寄贈品といった物心両面でのご支援に加え、夏祭りや外出ツアーでのボランティア活動では、直接利用者の皆様と触れ合っていたいただき、施設に温かい活気をもたらしてくださいました。



地域住民の方々との日常的な交流もまた、施設運営の大きな支えとなっています。行事への参加やボランティア活動を通じて生まれる自然な関わりが、利用者の皆様の生活にかけがえのない豊かさをもたらしました。また、行政、学校、医療機関、各種団体との連携により、地域全体で高齢者を見守る体制が築かれてきました。

このような地域とのつながりがあったからこそ、あいハート須磨は単なる

介護施設ではなく、「地域に根ざした福祉の拠点」として発展することができました。

そして、あいハート須磨で最も大切で、なくてはならない存在であり、真の財産が、他ならぬ職員一人ひとりです。利用者に寄り添い、日々の暮らしを共にし、時には悩みながらも真摯に向き合ってきた職員たちの揺るぎない姿勢が、この30年の歴史を築き上げてきました。彼らの専門性への探究心と、何より利用者様への温かい思いやりこそが、施設の根幹を支え、未来へと繋ぐ力そのものだと思います。

5 近年の発展と新たな取り組み

近年の大きな出来事として、2022年に竣工したリニューアル工事がありました。特別養護老人ホームでは定員を20名増床し、4人部屋には間仕切りを設置してプライバシーを確保しました。デイサービスセンターも大規模改修を行い、浴室や脱衣室の改善によって利用者の皆様の快適さと職員の業務効率化を同時に実現しました。これらの取り組みは、「生活の場の提供」と「プライバシーの尊重」という、当施設の介護方針を具現化したものであったといえます。

さらに「フーリーディングケア」にも積極的に取り組んでいます。



職員が人力で抱え上げるのではなく、福祉機器を効果的に活用しながら利用者の残存能力も引き出す介護手法であり、兵庫県知事からもモデル施設として認定されました。

職員と利用者双方に無理のない安楽な介護を実現するために今後も継続すると同時に、ICT機器の活用も進め、業務の効率化と負担軽減に努めて参ります。

6 職員の力と世代継承

先程もお伝えした通り、施設がどれほど拡充・整備されても、その中心にいるのは他ならぬ「職員」です。入居者の生活を支える介護職員、健康を見守る看護職員、食事を通じて心と体を支える栄養士や調理員、相談対応を行うケアマネジャー、そして事務スタッフなど、全ての力が集まって、あいハート須磨の日常が成り立っています。

また、職員の世代交代も進んできました。創設期を知るベテランから新たに加わった若手へと、経験と理念が受け継がれています。介護の専門性を磨きながら、



利用者の尊厳を守る、という揺るぎない思いを忘れない文化が、30年の歴史を通じて大切に育まれてきました。

人材育成にも力を注ぎ、研修や学び

の場を重ねながら、誰もが誇りを持って働ける職場づくりを目指してまいりました。今後も「人材」を大切にし、誰もが誇りを持ち、やりがいを持って長く働き続けられる活発な職場づくりに努め、この大切なバトンを新しい世代へと繋いでまいります。

7 社会の変化と新たな課題

30年の間に、社会環境は大きく変わりました。介護保険制度の開始、地域包括ケアシステムの推進、そして少子高齢化の進行。私たちを取り巻く状況も複雑さを増しています。

利用者の要介護度も年々高まり、医療ニーズを抱える方も増えています。そうした中で、医療との連携や感染症対策、ICTの活用など、新しい課題に对应していくことが求められています。

特に2019年から感染が広まった新型コロナウイルスの流行は、施設運営に大きな影響を与えました。「コロナ禍」という言葉が生まれ、面会制限や厳格な感染防止対策に迫られる日々の中で、利用者様やご家族にどのように安心を届けられるかを、私たちは改めて深く考えさせられました。この経験もまた、次の歩みへの大きな学びとなりました。

8 未来への展望

30周年は、決してゴールではなく、未来へと続く大切な通過点です。これから先の10年、20年に向けて、私たちが地域社会で担う役割は、さらに大きくなっていくことでしょう。地域の高齢者

が住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、在宅支援や地域連携の強化は欠かすことはできません。また、介護の現場ではICTやAIの導入による業務の効率化と、働く職員がやりがいを持ち長く続けられる職場づくりの両立が重要な課題です。

しかし、どれほど制度や技術が進歩しようとも、私たちがこれからも変わらず大切にしたいのは、やはり人と人との温かい心のつながりです。利用者の暮らしに寄り添い、日々の小さな変化に気づき、共に笑顔を分かち合えること——この原点を忘れることなく、地域に必要とされる施設として歩み続けてまいります。

おわりに

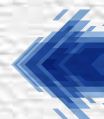
今日まで30年という歳月を歩んできたのは、様々な立場の方々との出会いと協働があったからです。利用者やご家族との日々の触れ合い、地域の皆様との自然な交流、行政や関係機関との連携、そして何より職員同士の絆——これらすべてが重なり合って、今日のあいハート須磨があります。

あいハート須磨の30年は、決して平坦な道のりではありませんでした。しかし、その一歩一歩の積み重ねが、確かな歴史を築き上げてきました。

この30年の歴史を胸に、私たちはこれからも「安心と笑顔あふれる街づくり」を合言葉に、地域に必要とされ続ける施設であるよう、職員一同、全力を尽くしてまいります。

あいハート須磨30年間のあゆみ(年表)

1998 平成10年		1997 平成9年	1996 平成8年		1995 平成7年		1991～1994 平成3～6年					
9月	4月	4月	10月	4月	7月	4月	1993	1991				
● 居宅介護支援事業開始	● 訪問介護事業、サテライト型 デイサービス事業開始	● 介護保険事業として兵庫県から事業指定	● ヘルパー派遣事業開始(神戸市から受託)	● 在宅介護、研修・支援センター開設	● 配食サービススタート	● 神戸市からシルバーハウジング 生活援助派遣事業受託	● 「愛&ハート」創刊 ● 一年間の見学者が 二千名を超える	● 「愛&ハート」創刊 ● 一年間の見学者が 二千名を超える ● ハートふる須磨開設 (三月二十八日 式典開催)	● ハートふる須磨起工式	● NTTと土地使用貸借契約(無償)締結	● 全電通労組による一口五百円の建設資金 カンパ活動開始	● 昭和六十年から検討してきた記念事業 プロジェクトが「高齢者福祉センター」と して、具体的な構想に着手
												
					1995年3月 竣工式							
2011 平成23年		2010 平成22年		2009 平成21年	2008 平成20年	2007 平成19年	2006 平成18年					
10月						4月	4月					
● 全館空調設備改修工事、躯体断熱工事の 実施		● 日中おむつゼロをめざし、自立支援介護に 注力		● 「介護職員処遇改善交付金」を活用し 職員の処遇を改善	● 新規事業開始に向けて神戸市遊休土地を 入札するも競り負け断念	● 「あいハート須磨ヘルパーステーション」 事業廃止	● 神戸市より 地域包括支援センター の運営を受託					
												
		2010年8月 夏まつり					2006年11月 明石焼きパーティ					
2020 令和2年		2019 平成31年(令和元年)		2018 平成30年	2017 平成29年		2016 平成28年					
3月		2月		10月			5月					
● ハラスメント対策強化		● 脳梗塞リハビリステーション 神戸須磨を開設		● SNS(インスタグラム)の運用開始	● 「くらくろ連絡網」による安否確認訓練の 開始		● 進路情報フォーラム参加 (九州の高等学校の先生方との面談会)					
● 兵庫県地域サポート施設認定		● あいハート南町デイサービス事業廃止		● EPA(ベトナム人介護福祉士候補生 第二期生二名受入)	● EPA(ベトナム人介護福祉士候補生 第一期生二名受入)		● EPA介護福祉士候補生の確保に向けた 取組開始					
● 新型コロナウイルス感染症拡大					● 生きがいデイサービス事業の廃止							



2005 平成17年		2004 平成16年	2003 平成15年	2002 平成14年	2001 平成13年	2000 平成12年		1999 平成11年	
8月	4月		9月	4月	5月	4月	2月	10月	10月
<ul style="list-style-type: none">● AED (自動体外式除細動器)の設置● 開設十周年 感謝の集い <div><p>10周年記念</p></div>			<ul style="list-style-type: none">● 中国上海市電信工会訪日団が施設見学	<ul style="list-style-type: none">● 須磨デイサービス日曜日の営業スタート	<ul style="list-style-type: none">● あいハート須磨ご家族の会結成	<ul style="list-style-type: none">● 訪問介護事業所を「あいハート須磨ヘルパーステーション」へ名称変更	<ul style="list-style-type: none">● 「在宅介護を支える介護実技教室」開催(下山名月先生) <div><p>南町デイ開設</p></div>	<ul style="list-style-type: none">● 民主党の鳩山代表(当時)があいハート須磨を見学	<ul style="list-style-type: none">● 施設ウェブサイト作成● 「ハートふる須磨」から「あいハート須磨」へ名称変更
2015 平成27年			2014 平成26年		2013 平成25年			2012 平成24年	
7月			4月					5月	
<ul style="list-style-type: none">● 九州・沖縄の福祉専門学校へ訪問活動開始● 施設ウェブサイトの更改 <div><p>2015年11月 20周年イベント</p></div>			<ul style="list-style-type: none">● 職員採用活動強化(学校訪問など、アウトバウンド施策)		<ul style="list-style-type: none">● 大規模改修工事の実施● あいハート離宮前開設(五月) <div><p>2013年5月 あいハート離宮前開設</p></div>			<ul style="list-style-type: none">● 職員向けメンタルヘルス相談サービス(福利厚生)開始● あいハート離宮前着工	
2025 令和7年			2024 令和6年	2023 令和5年	2022 令和4年		2021 令和3年		
9月			4月	1月					
<ul style="list-style-type: none">● 開設三十周年記念式典● 次世代に向けた「新たな組織体制」の構築 <div><p>2025年9月 30周年イベント</p></div>			<ul style="list-style-type: none">● エンゲージメントサービスの実施	<ul style="list-style-type: none">● 簡易陰圧装置(コロナ対策)の設置● 敷地が無償から有償へ契約変更	<ul style="list-style-type: none">● 勤務シフト作成システム導入		<p>法人設立五十周年</p> <ul style="list-style-type: none">● 増床、改築工事(特養五十床から七十床へ)● ICT機器(見守りセンサーリフト機器、インカム等)の導入● 新人事・給与制度導入● 兵庫県ノーリフティングケアモデル施設認定		

30th

あいハート須磨 30周年記念

あいハート須磨職員 メッセージ

Message



■施設長 根本 浩司

あいハート須磨 30周年を迎えるにあたり、法人や施設の設立に込められた先人の想い、先輩方が築き上げてこられた経営・運営の礎、関係者の皆様によるご寄付と温かいボランティア活動によるご支援、現職員のたゆまぬ努力の偉大さを改めて実感いたしました。多くの方々に支えによってここまで歩んでこられたこと、心より感謝申し上げます。受け継いだ歴史と想いを絶やすことなく、これからも強い結束で未来へと歩みを進めてまいります。



■副施設長 仙波 剛

開設30周年を迎え、自身も同じ歴史を歩み勤続30年を迎えました。老人福祉を取り巻く環境も措置から介護保険制度に移行され大きな変化もありました。高齢者人口増が一層加速する時代を迎える中、サービスの品質の維持と向上に取り組み、あいハート須磨を選んで頂ける施設であり続けられるよう取り組んで参ります。何よりも、あいハート須磨で働く職員が「ここで働いて楽しい、やりがいがある」として、「ここで働きたい」と思っている環境作りにも取り組んで参りたいと思います。



■特養部門 主任補佐 佐々木 紅美

あいハート須磨が開設30周年を迎えられたのは、地域やご家族様のご支援があってこそ、感謝申し上げます。ご入居様に対して、いま以上に関わりを持ち、ご家族様と連携を取り、よりよいケアの向上に取り組みでいきたいと思います。また、これまでの歴史、諸先輩方が培った経験を継承し、さらに経験を積み精進して参りたいと思います。



■特養部門 主任補佐 藤原 祐樹

記念イベントの準備で気付いたのは、他部門との連携が上手く取れていて一体感を感じたことでした。30年という年月の中で積み重ねられてきたことの偉大さを改めて感じました。現在特養部門はとても厳しい状況ですが、現状を乗り越え、感謝祭で見られた他部門の連携を特養内で実現できるように職員や現場のマネジメントをしていきたいです。職員の定着に向けた取り組みを増やし、現状の職員が安心して働ける環境になるように主任補佐として今後も務めていきたいです。



■須磨デイサービスセンター 部門長 原田 浩樹

私たちデイサービス職員は、利用される方々が安心して過ごせるよう、環境づくりや関わり方を常に見直しながら支援にあたっています。決まった正解がないからこそ、試行錯誤の連続ですが、その中で得られる気づきや学びは、何よりの財産です。30年という節目を迎えた今、これまでの歩みを振り返りながら、これからの地域福祉にどう貢献していけるかを考える機会にしたいと思います。これからも、日々の営みを大切にしながら、より良い支援を目指して取り組んでまいります。



■須磨デイサービスセンター 宮原 璃風

私はあいハート須磨に就職して6年目になりました。あいハート須磨では、上司や同僚の方々が常に私の意見に寄り添ってくださることや、様々なことに挑戦させてくださり、未熟だった私がここまで成長することができました。特に、「書道教室」を設けて下さり、自身のモチベーションに繋がり、仕事のやり甲斐をとても実感しています。これからはもっと自身が成長できるよう、仕事に励み、様々なことに挑戦し続けていきたいと思っています。

■ 居宅介護支援事業所 部門長 丸島 幸子



あいハート須磨
開設30周年を迎え
られことに心から
感謝申し上げます。
私が入職して
今年で17年目とな

ります。この間、多くの出会いと学びを
いただきました。これからも地域の利
用者様一人ひとりの想いに寄り添い
「その人らしさ」を支援できるケアマネ
ジャーでありたいと思います。これか
ら地域の皆様とともに、あたたかい
絆でつながる施設を目指し、ぬくもり
のある暮らしを支えていきたいと思ひ
ます。

■ 居宅介護支援事業所 部門長代理 橋本 裕弥



私は介護支援専
門員として、利用
者様やご家族、地
域の方々や事業所
の皆様と連携し、
その人らしく過ご

すための方法を考え取り組んでしまし
た。30年の歩みの中で、以前ご縁のあ
ったご家族から声をかけていただくこ
ともあり「介護のことならあいハート
へ」と思っていただけのは、先輩方が
築いてこられた信頼の積み重ねだと感
じます。

これからも利用者様、地域とのつな
がりを大切に、安心と信頼を届けられ
るよう励みたいと思います。

■ 西須磨あんしんすこやかセンター
部門長 柏木 照子



あいハート須磨
30周年を迎えて、
地域の皆様と関係
各所の温かいご厚
情に支えられ、先

輩方が築いてこ
れた信頼と実績によるものと感謝申し
上げます。私の入職時「あんしんすこ
やかセンター」は存在しませんでした
が、施設への信頼を糧にして、地域の方々や
職場の仲間から学びを頂きながら「地域
包括支援センター」の歩みは、今後も続
いていきます。信頼される施設・センタ
ーを意図し、感謝とつながりの輪を大切
に笑顔を育みます。

■ 西須磨あんしんすこやかセンター
大道 雅子



あいハート須磨
が開設30周年を迎
えることができました
のは、これまであ
いハート須磨の運
営を支えて来られ

た職員の皆様の頑張りはもちろんで
すが、あいハート須磨を温かく見守って
くださっている地域の方のお力添えがあ
ったからこそだと感じております。これ
からもその感謝の気持ちを忘れず、地域
の方とのつながりを大切に、地域に根付
いたあいハート須磨、そしてあんしんす
こやかセンターであり続けられるよう
頑張りたいです。

■ 厨房 部門長 澤田 州子



日々の食事は私
たちの体を支える
大切な営みです
が、ほとんどは記
憶に残りません。
けれど、誰かと囲

んだ食卓での笑顔や初めて味わった料
理の驚き、誕生日の祝い膳など、感動の
瞬間は記憶の奥に刻まれていると思ひ
ます。食事を作る側として、栄養だけで
はなく「心が満たされる食事」を提供で
きるよう、利用者一人ひとりの状態や嗜
好に寄り添った献立作成をさらに工夫
します。「この人に任せたい」と思っ
てもらえるよう、専門性と人間性の両面を磨
くことで、信頼される存在になれるよう
努力していきます。

■ 厨房 管理栄養士 林 枝里



今後の取り組み
は、「厨房スタッフ
の職場環境を整え
る」です。厨房ス
タッフは、美味し
い

お食事を利用者様
に提供するため、作業の効率化や料理の
安心・安全に配慮した仕事に求められ
ます。その為には、私たち自身が働きや
すい環境を考え、日々の業務で実施し、
働きたいと思える職場づくりが大切だ
と考えます。スタッフで意見を出し合
い、協力しながらより良いあいハート須
磨を作っていきます。

■ 事務スタッフ 春井 希実子



記念イベント
では、ソーラン節
担当を務めさせ
ていただきました
。日常業務で多
忙な職員がなん

とか結束してみんなで達成感を味わ
いたいという思いから、あの手この手
で声をかけ、練習を進めて参りました。
多くの職員の協力により、本番は
大声で盛り上がり、会場がひとつにな
れた気がします。ご来場の皆さまから
たくさんのお褒めのお言葉もいただき、
感謝があります。今後も仲間と協
力しながら、楽しんで人を巻き込み、
何事も前向きに取り組む姿勢を大切
にしていきたいです。



外部メッセージ

■ N T T労働組合関西総支部
執行委員長 川口 忠



あいハート須磨設立
30周年おめでとうござ
います。

日々、施設の入所者皆
さんが安心して過ごせ

る施設の安定的な運営にご尽力をいただい
ている職員皆さんに、心から敬意と感謝を
申し上げます。

全電通近畿社会福祉事業団は、組合員一
人ひとりの参加のもと「愛のカンパ」活動に
はじまり、これまでもN T Tグループ会社
や行政諸団体など、皆さんの温かい支援に
より、今日に至っています。

これからも、先人が創ってくれた「社会的
に価値ある運動」をこれからも継承し、後援
会活動のみならず、施設の夏祭りやボラン
ティア活動などを通じて、この活動の意義
をつなぐとともに、組合員の組合活動に参
加をする気運を高めてまいりたいと考えて
います。

引き続き組合員・会員からの善意を寄せ
合い、施設の運営に役立てていただけるよ
う取り組むことをお約束申し上げ、開設30
周年のお祝いのメッセージとします。

■ N T T労働組合関西総支部 兵庫分会
分会長 松尾 健作



特別養護老人ホーム
「あいハート須磨」が開設
30周年を迎えられますこ
と心からお慶び申し上
げます。また、日頃より

N T T労働組合の活動につきましてご理解
とご協力を頂いていますこと、厚く御礼申し
上げます。

貴施設は、地域に愛され親しまれる憩いの
場として長きにわたり運営を続けて来られま
した。この間の歴代施設長をはじめ職員各位
の献身的な心遣いと、笑顔あふれる施設運営
に対しまして深甚なる敬意を表します。

事業団設立からは50数年が経ったわけ
ですが、全電通、現在のN T T労働組合が主体
となつて設立をした当時の志しを一人でも
多くの組合員に浸透をさせていくことが私
たちの使命であり、特に全電通近畿社会福
祉事業団後援会加入の取り組みについては
社会貢献活動の一環と位置づけて、事業団
運営への参加・参画意識の醸成に繋げて行
きたいと考えます。

最後に、貴施設の益々のご発展と皆さま方
の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまし
て、50周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

■ N T T労働組合退職者の会兵庫県支部協議会
会長 山本 義之



全電通近畿社会福祉事
業団の使命である「共に
生き共に認め合い支えあ
う笑顔あふれる福祉社会
をつくる」のもと199
3年12月15日工事を着工
し、阪神・淡路大震災を乗り越え1年3ヶ月
の工事期間を経て1995年3月28日無事竣
工式を終え、ここに特別養護老人ホーム「あい
ハート須磨」設立30周年を迎えられましたこ
と、心よりお祝い申し上げます。

「少子高齢化社会」・「雇用環境の変化」・「ラ
イフスタイルの変化」等、社会構造の変化に対
応していかなければならない厳しい環境のな
か、施設長をはじめスタッフ一同が「あいハ
ート須磨」の運営方針に基づき鋭意努力され今
日に至ったことに敬意を表します。

「あいハート須磨」が今後も安定した運営・
維持のためには、地域に親しまれ、入居者・家
族等に「あいハート須磨」があつてよかった、
入居してよかった、と喜んでいただける施設
であり続けるよう願っています。

N T T労働組退職者の会兵庫県支部協議会
は、カンパ活動(寄付金)を始めデイサービス・
植栽管理等を支援するなど微力ではありますが
が引続き活動を継続してまいります。

最後に、「あいハート須磨」の今後益々のご
発展を祈念し、お祝いの言葉に代えさせてい
ただきます。

■あいハート須磨 元施設長

畑野 守



あいハート須磨の開
設30周年、誠におめでと
うございます。

素晴らしい施設へと
発展されている様子を
拝見し、関係者の皆さまの尽力に深く敬
意を表します。

阪神・淡路大震災の際には、工事の遅れ
や機材の確保、ガス・水道の復旧など、多く
の課題を抱える中で、4月の開設に間に合
わせることができるか、工事関係者と夜遅
くまで議論を重ねたことを思い出します。

また、開設2年目に施設長を務めること
となり、介護保険制度の導入や、商標登録の
関係で訴訟を受け「あいハート須磨」に名称
変更したこと、年功序列型賃金体系から能
力に応じた賃金体系への移行、西須磨小学
校での運動会をはじめとする各種行事な
ど、さまざまな出来事が思い出されます。

幸いにも大きな事故もなく終えられたの
は、法人をはじめ、N・T・T労組などの応援
団、西須磨だんらん・行政の皆さま、そして
職員の支えがあったからだと感じておりま
す。改めて心より感謝申し上げます。

最後に、法人ならびに関係施設のますま
すのご発展をお祈り申し上げます。

■1人浴槽との出会いから

■あいハート須磨 元職員
中尾 孝子

「我が町に特養が！」
それを知ったのは31年前
の夏、松風町の工事看板
を見た時だった。興味を
持ち、記載されていた番
号に電話をかけた。後

日、南町の開設準備室で会ってくれたのが、
初代施設長の藤井氏だった。開口一番、「あれ
は何だと思う？」と木の箱を指された。大き
さから浴槽かなと思ひ答えると、とても嬉し
そうに破顔された。その時の表情は今も忘れ
られない。

自立支援Ⅱ生活リハビリという考え方を初
めて知った。翌年の大震災で住まいも大切な
物も失ったが、働ける施設があることが幸い
だった。退職するまでの思い出は尽きない。入
居者のMさんたちは、遠く離れた南の島に帰
ることもできない……。少しでも故郷を感じ
てほしいとエイサーを習い披露した時の笑顔
と涙は、私のその後の人生に大きな影響を与
えた。

65歳で退職するまでは山あり谷ありの20年
だったが、そのすべてが私の生きる力となっ
た。歴代の施設長や共に泣き笑った仲間
に支えられ、成長できたことに感謝したい。次の
50周年に向け、「心が動けば体が動く」を忘れ
ず、我が町の頼れる施設でありますように。

30周年おめでとうございます♥

■あいハート須磨 元職員

松本 真澄



あいハート須磨開設
30周年おめでとうござ
います。

平成7年1月阪神淡路
大震災の後、建設工事中
の施設の足場を藤井さん、畑野さん達とヘル
メットを被り昇っていった時に、建物壊れ
ていなかった安心感、まさに絶望から希望、こ
こには未来があるという高揚感は今でも鮮明
に覚えています。

開設準備室から諸先輩方々が地域を巻き込
み、地域に根差した施設創りを目指し、幾多の
試練を乗り越えて、今ここに30周年を迎えら
れたことを誇りに思います。

あいハート須磨で学んだ「心が動けば体も
動く」この言葉は私の人生において大きな転
機となり、仕事においてもゆるぎない指針と
なり、迷うことなく人生の大先輩である利用
者様に寄り添い共に歩んでこられたと思っ
ています。

30周年式典とイベントでは、施設中にみな
ぎる職員さんのエネルギーには未来の可能性
が無尽大であることを確信いたしました。

あいハート須磨の新たな時代の幕開けを今
後も楽しみにさせていただき、お祝いの言葉
といたします。

30年の感謝を込めて

30年間にわたり事業を継続できたことへの「感謝」の気持ちを伝えるとともに、今後のさらなる発展に向けた激励をいただくことを目的に、2025年9月14日(日)に記念

事業を実施しました。

職員、ご入居者・ご利用者、ご家族、地域関係者など多くの方にご参加いただきました。



▲入居者様代表のご挨拶



▲ご来賓の皆さま

あいハート須磨記念事業イベントを開催

記念式典と式典後の交流

午前11時15分からオープニングセレモニーがスタート、開会宣言は利用者代表の方をお願いしました。主賓の皆さまからご挨拶をいただいた後、施設長の根本より、設立から現在までの写真にナレーションを付けた「あいハート須磨30年の歩み」を

紹介し、施設の成り立ちや沿革、施設理念などを出席者で共有しました。セレモニー後には、行事食を囲んだ昼食会となり、ご利用者様、ご家族、ボランティアの皆さま、職員が交流を深め楽しい時間を過ごしました。



お食事中



▲ボランティアの皆さま



▲ボランティアによるたこ焼きづくり

熱気あふれる感謝祭イベント

昼食後は感謝祭イベントがスタート。NTT西日本吹奏楽団による演奏で会場を盛り上げていただき、「上を向いて歩こう」などの懐かしい歌や皆さんが知っておられる歌の演奏もあつて、ご利用者様も一緒に演奏に合わせて歌を口ずさまれていました。

そして、もう一つのイベントである職員による演武の披露がスタート。以前、あいハート須磨の夏まつりで演武していたエイサーサークルが

復活し、沖縄の伝統芸能である「エイサー」を演武しました。そして最後は、数十名にも及び職員が「よさこいソーラン」を披露し、どっこいしょ、どっこいしょ！と会場を大いに盛り上げてくれました。

あいハート須磨、あいハート離宮前の職員が部門を超えて結集し披露した演舞は、会場全体の一体感を高めました。



▲NTT西日本吹奏楽団



▲エイサー演武



▲よさこいソーラン披露

おかげさまで30周年！「感謝」と「結束」を胸に

今後の事業発展に向けて

当日は良い天気恵まれ事故などもなく予定通りに無事終えることができました。イベントの成功は、部門を超えた職員間の交流を促進し、「結束」を強める契機となりました。

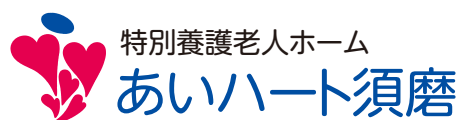
皆様からいただいた「感謝」と

「激励」を胸に、あいハート須磨は今後も職員一同、力を合わせ、より一層のサービス向上に努めてまいります。

ご参加いただいたご来賓、ご利用者様、ご家族、ボランティアの皆様、地域の皆様、そして職員の皆様に、心より感謝申し上げます。



▲記念Tシャツで記念写真



第4回法人内事例発表会の開催報告

2025年10月19日(日)、コミュニティプラザ大阪3階にて「第4回法人内事例発表会」を開催いたしました。

今年度は、愛の家から3チーム(きぼう・かがやき・工房みさき)、あいハート須磨から4チーム(特養・デイサービス・居宅介護支援事業所・あんしんすこやかセンター)、あいハート離宮前から1チームの計8チームが、日々の業務改善やサービス向上に向けた取り組みの優良事例を発表しました。

今回で4回目の開催となり、各チームの発表内容はますます充実。プレゼン資料の構成や話し方、データの活用など、年々スキルが向上していることを実感できる発表会となりました。特に今年は、事例の背景や課題に対する深い分析と、現場での工夫・成果が丁寧に語られ、聴講者の共感を呼ぶ場面も多く見られました。

当日は、審査員である役員・評議員をはじめ、職員や傍聴者など総勢39名が参加し、盛大に開催されました。

発表終了後には表彰式を行い、以下の部門が受賞されました。



▲第4回事例発表会

《受賞結果》

第1位 最優秀賞 愛の家 きぼう部門

演題 伝わらないしんどさ ～思いをつなぐ架け橋づくり～

第2位 優秀賞 あいハート須磨 デイサービス部門

演題 座ることの大切さ ～シーティング介入を通して～

第3位 努力賞 あいハート須磨 特養部門

演題 わたしもあいハートの一員です。



▲最優秀賞 きぼう部門



閉会後には懇親会を実施し、部門・施設を超えた活発な意見交換が行われました。

職員にとって他部門の取り組みを知る良い機会となり、交流を深めることで、法人としての一体感を一層強めることができました。

今後も発表会を通して得た気づきや刺激を業務に取り入れ、更なる業務改善やサービスの向上に繋げていきたいと思います。

▲全体写真

ご支援をくださった方々

《9月》

後援会費

NTT労働組合ドコモグループ本部
ドコモビジネス関西分会 様

寄付金

NTT労働組合退職者の会 大阪支部協議会 様

寄付金(あいハート須磨30周年記念祝い金)

あいハート須磨ユニオン 様

NTT労働組合関西総支部会 様

NTT労働組合関西総支部兵庫分会 様

NTT労働組合

退職者の会兵庫支部協議会 様

特定非営利活動法人

福祉ネットワーク西須磨だんらん 様

荒木 温子 様

畑野 守会 様

(計9件)

《10月》

寄付金

赤本 忠司 様

石井 良子 様

小野クリニック 小野 一広 様

梶本 幸治 様

小河 房江 様

(計5件)

「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切に対応するための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団

〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73

TEL 06-6458-5723

Website <https://www.zendentu-kinki.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>

E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

